



TITLE:

<教室通信>セミナー道場

AUTHOR(S):

高岡, 義寛

CITATION:

高岡, 義寛. <教室通信>セミナー道場. Cue 2010, 24: 59-59

ISSUE DATE:

2010-09

URL:

<https://doi.org/10.14989/145904>

RIGHT:

教室通信

セミナー道場

光・電子理工学教育研究センター 高岡 義寛

京都大学が国立大学法人となり、中期目標・中期計画を策定する中で、電気系教室の関連組織の改組に伴って、附属光・電子理工学教育研究センターが平成19年4月1日に設立されました。また、本センターを核として受け皿となったグローバルCOE「光・電子理工学の教育研究拠点形成」がスタートして、本年度は4年目になります。その活動の中で、人材育成プログラムとして、「自立型研究者の育成」、「幅広い専門知識を持つ研究者の育成」、「国際的に通用する研究者の育成」を目標として、若手研究者の育成を支援しております。教育と研究は車の両輪と云われ、新しい研究分野の開拓と共に、人材育成は大学に課せられた重要な課題となっています。「優れた研究、優れた人材、優れた環境」をキーワードに、目標のひとつである「幅広い専門知識を持つ研究者の育成」を行うために、セミナー道場を平成20年度から毎年開催しております。本稿では、このセミナー道場の開催趣旨、プログラムおよび特色について紹介致します。

本セミナー道場では、学生が主体となって会議を企画・運営し、様々な専門知識を持つ大学院学生の育成と融合研究の芽生えを目的としており、グローバルCOE関係の大学院博士後期課程の学生および電気系教室連携教育プログラムの大学院学生を対象としています。昨年度は、平成21年10月30日（金）～31日（土）、淡路夢舞台国際会議場で開催しました。素晴らしい自然環境の淡路夢舞台で、本格的な国際会議ができる会場の雰囲気刺激を受け、留学生を含んだ参加学生は高揚した気分で熱心にセミナー発表を行っていたのが印象的でした。また、型苦しい雰囲気になりがちなスクール形式とは異なり、学生が主体となった1泊2日の泊り込みの議論を通して、同じ道場の仲間と云った意識が芽生えたようです。セミナー発表はショートプレゼンテーション付のポスター形式で行い、最初の30分間は発表者と質問者のペアを組み、それぞれ議論を行いました。参加者は大学院学生45名を含め、教職員併せて56名でした。

初日のセミナー発表では、大学院博士後期課程3回生および2回生の上級生の学生がそれぞれの研究の背景や目的を含めて、重要かつ先端的な研究の成果についてポスター発表を行い、下級生との質疑応答を行いました。議論を通して、それぞれが幅広い専門知識を習得することができたと感じています。

夜のランプセッションでは、企業から講師を招いて特別講演を企画しました。化学気相成長法を用いた薄膜形成の実例を挙げながら、研究の成功例や失敗例についての熱弁に、聴講した学生は大きな感銘を受けておりました。休憩を挟んだ後、セミナー発表でもう一度聞いてみたい発表について3件を選出し、それぞれの研究内容をさらに詳しく発表してもらいました。その後、飲み物を手にしながら自由討論形式で懇談し、議論は消灯時間の深夜まで行われました。

2日目のセミナー発表では、主に大学院博士後期課程1回生の学生および連携教育プログラムの修士課程の学生がポスター発表を行い、上級生との質疑応答を行いました。昼食の後、短い時間でしたが、お互いの交流の場として会場周辺の庭園散策を行い、様々な研究分野の学生が上下関係の壁を越えた交流や散策を楽しんでいました。

このように、セミナー発表では電気工学専攻、電子工学専攻、通信情報システム専攻の大学院学生および光・電子理工学教育研究センター、化学研究所、生存圏研究所に所属の大学院学生が、それぞれの研究を異なる専門分野の学生にも分かりやすく説明を行ない、活発な質疑を通して幅広い専門知識を習得することができたと感じています。さらに、一昨年度に神戸セミナーハウスで開催したセミナーに引き続き、同じ志を持った研究者同士が集まり、切磋琢磨する場としてのセミナー道場の開催は、その企画・運営を通して、学生自身の主体性や創意工夫の涵養にも貢献したと確信しています。今年度（平成22年度）は、他流試合の意味合いで、東京大学や大阪大学のグローバルCOEとの共同開催を企画しており、平城遷都1300年を迎えた奈良で開催を予定しています。関係する皆様方には、セミナー道場に対するより一層のご支援とご教示を、引き続き賜れば幸いに存じます。